



社会人女性における剣道の継続要因に関する研究

中川瑞貴（上越教育大学大学院）

1. 目的

本研究では剣道経験のある社会人女性を対象にインタビュー調査を行い、社会人女性における剣道の継続要因を検討した。

2. 研究方法

- 1) 対象者 剣道経験のある社会人女性 17 名
- 2) 調査方法 半構造化面接によるインタビュー調査 (ZOOM により面接) ①パーソナルデータ (年齢, 学歴, 職業, 剣道歴・段位, 競技成績), ②インタビューは、「過去 (就職前の剣道経験)」、「現在 (就職後の剣道経験)」、「剣道の魅力」、「継続に関すること」、「中断した経験について」の 5 項目について 16 種類の質問を行った。
- 3) 分析方法 インタビュー内容を Modified Grounded Theory Approach (M-GTA) に基づき概念の生成を行なった。生成された概念をカテゴリでまとめ図示した。生成された概念やカテゴリなどの客観性を保証するため、著者を含む大学院生 5 名及び大学教員 1 名で行った。

3. 結果と考察

- 1) 過去 (就職前の剣道経験) : 「剣道を行う目的」の質問では、高校段階で 3 つのカテゴリ、高校以降の進学先で 5 つのカテゴリに整理された。「剣道又は部活を辞めたいと思った経験の有無」の質問では、高校段階で「ない」と答えた回答者群で、5 つのカテゴリに整理された。「ある」と答えた回答者群では、3 つのカテゴリに整理された。高校以降の進学先では、「ない」と答えた回答者群は、4 つのカテゴリに整理された。「ある」と答えた回答者群は、3 つのカテゴリに整理された。
- 2) 現在 (就職後の剣道経験) : 「剣道を行う目的」の質問では、4 つのカテゴリに整理された。「剣道を辞めたいと思った経験の有無」の質問では、「ない」と答えた回答者群は、4 つのカ

テゴリに整理された。「ある」と答えた回答者群は 4 つのカテゴリに整理された。

- 3) 剣道の魅力 : 「剣道の好きな所」の質問では、6 つのカテゴリに整理された。「剣道の嫌な所」の質問では、3 つのカテゴリに整理された。「変えたい所」の質問では、4 つのカテゴリに整理された。
- 4) 継続に関すること : 「剣道を継続できた要因」の質問では、7 つのカテゴリに整理された。「剣道を継続するための意識・工夫」の質問では、4 つのカテゴリに整理された。「剣道継続における SNS の有用性」の質問では、3 つのカテゴリに整理された。「女性が剣道を継続するために大切な事」の質問では、5 つのカテゴリに整理された。
- 5) 中断した経験について : 「剣道活動を中断した理由」の質問では、5 つのカテゴリに整理された。「剣道活動に復帰した理由」の質問では、3 つのカテゴリに整理された。「復帰にあたっての不安や困難な事」の質問では、4 つのカテゴリに整理された。

4. 結論

社会人女性が剣道を継続するためには様々な要因が同時に満たされる必要がある。継続に関することの「剣道を継続できた要因」で生成された概念やカテゴリの結果から、安心して稽古に取り組める (環境要因) を満たした後、他者との関わりとしての (他者要因)、自己や他者からの承認を満たすという (自他承認) や (競技力向上) を階層とし、最終的に (自己実現) や (探求心) のような内発的動機付けが生じることによって社会人女性の剣道活動の継続に繋がりがやりやすいと考えられた。

本研究における新たな知見として、SNS の有用性が見出された。「剣道継続における SNS の有用性」では、指導者が得られない場合でも、YouTube 等の動画による学習によって継続の動機づけが維持されているという事例が認められた。